

## 成果事例集刊行に向けて

我が国は、これまでにない人口急減・超高齢化という大きな課題に直面しており、現在、これらの課題に対して政府一体となって、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生することを目指し、地方創生に係る様々な取組を行ってきています。

その大きな取組方針の一つとして「地方にしごとを作り、安心して働けるようにする」ということが位置付けられており、そこでは、ローカルイノベーションの重要性について言及されています。

文部科学省では、地域科学技術イノベーション創出に向けた様々な取組をこれまでも実施してきています。

平成14年度より、「第二期科学技術基本計画」(平成13年3月)を踏まえ、世界レベルのクラスター形成を図る「知的クラスター創成事業」と、小規模でも地域の特性を活かした強みを持つクラスター形成を図る「都市エリア産学官連携促進事業」を開始しました。

また、平成22年度からは、クラスター形成に関して、地域と大学等との組織的な連携をより強化し、地域の自立化を一層促進するため、これまで実施してきた「知的クラスター創成事業」及び「都市エリア産学官連携促進事業」を、「イノベーションシステム整備事業」(地域イノベーションクラスタープログラム)として一本化しました。

さらに、「地域イノベーションクラスタープログラム」(平成22年度実施)で採択した地域については、これまでの成果を着実に発展させ、地域が持続的に発展できるクラスターを構築できるよう、「地域イノベーション戦略支援プログラム」(平成23年度開始)の継続地域として位置付けました。

本成果事例集では、これまで支援してきた事業に係る多くの成果の内、既に起業を果たしたものの、事業終了後に企業での研究開発継続により製品化を果たした(あるいは間近となった)もの、得られた研究開発結果を元にさらに実用化に向けた研究開発を継続しているもの、などについて掲載しています。

地方創生は、現在の日本における最重要課題の一つです。

本冊子を手にされたことをきっかけに、産学官金連携の手がかりとなり、地域におけるイノベーション・エコシステムの構築が促進され、地域発のイノベーションによる産業競争力強化、雇用創出につながることを期待しています。